

令和2年度第2回図書館協議会会議録要旨

日 時 令和3年2月18日(水)
午後2時～午後3時40分
場 所 中央図書館 視聴覚室

出席者 会長 野口 さち子 副会長 野村 みさ子
委員 方波見 諭 委員 池田 純子
委員 小林 誉 委員 花ヶ崎 さ月
委員 高安 俊昭
(出席委員 7人)

事務局 出沼館長(中央図書館) 長峯館長(うずも図書館)
前田主査 中平主査 石橋主査 神崎主幹 小松主事
高田学校図書館アドバイザー

1 開 会

(事務局) お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。
また、日頃から多方面にわたりご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。
皆さまもご存知のように、図書館は誰もが気軽に利用でき親しまれるよう、そして、コロナ禍においても可能な読書活動を支援するサービスの構築維持に努めているところでございます。今年度は休館や、再開しても利用制限や集客行事などは中止となり、本協議会におかれましても、6月の第1回会議を持ち回りの審議とさせていただきました。
では、お手元の委員名簿をご覧ください。本日の委員メンバーでは初の会議となりますので、ここで自己紹介をお願いいたします。

(委員、事務局自己紹介)

それでは、会議に入ります。本日の委員の出席者は7名、欠席者3名、委任状3名でございます。過半数以上であるという規定を満たし、会議は成立します。ただ今より令和2年度第2回神栖市図書館協議会を開催いたします。

2 挨拶

(会 長) 皆さま、改めましてこんにちは。会長の野口でございます。本日はお忙しいところ、またコロナによる県独自の緊急事態宣言が続く中、委員の皆様には図書館協議会にご出席いただきありがとうございます。令和3年度第2回図書館協議会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今年度は、第三次の神栖市子ども読書活動推進計画の策定の年でございます。第一次は10年前でございますが、本年4月からの第三次計画は、今月の定例教育委員会議へ議案として提出いたします。この第三次計画では、図書館・図書室が遠く、利用しにくい児童生徒に対する読書活動の推進、また、GIGAスクール構想への対応などが新しい取り組みです。

さて、当協議会は、図書館長の諮問に応え、図書館の運営方針・事業計画等について、委員皆様からご意見をいただき、市民が求める図書館のあり方を審議する機関としての役割を担っております。皆様から忌憚のないご意見をいただき、一緒に市民に役立つ図書館事業の進展に寄与できるよう協議をすすめて参りたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

3 案件

(1) 報告第4号 令和3年度神栖市立図書館事業予算(案)の概要について

(事務局) (説明)

(会 長) 以上、事務局から説明がありましたが、質問等ございましたらお願いします。

(委 員) 旅費の予算が638万9千円ということで、すごく高いなあと感じるのですが、どのようなお仕事や勉強をされてきたのでしょうか。

(事務局) 旅費とありますと、職員がどこかへ行った出張の旅費のように思われますが、こちらには、会計年度任用職員の通勤手当が含まれています(※)。中央図書館のほか、うずも、はさき生涯学習センター、矢田部公民館、若松公民館のすべてを合わせると54人になるため、この金額になります。

(※) 旅費638万9千円のうち624万1千円が通勤手当

(委 員) そうだったんですね。ありがとうございます。

(会 長) その他には何かございますでしょうか。他に質問が無いようですので、「報告第4号 令和3年度神栖市立図書館事業予算(案)の概要について」は報告済みといたします。

(2) 諮問第1号 令和3年度神栖市立図書館運営方針(案)について

(事 務 局) (説明)

(会 長) 以上、事務局から説明がございましたが、何かご質問がありましたらお願いいたします。

(委 員) 皆さん、大変なお仕事をされているなど感じました。少人数で、コロナ対策をしながら基本方針や新しい図書館サービスを考えたりして、すごい行動力だと思います。特に面白いと思ったのが「学校★(ほし)ほんお届けサービス」で、とてもかわいらしい名前ですね。どのようにして名前をつけられたのでしょうか。

(事 務 局) 「★ほん」のしくみ等は後ほど説明させていただくのですが、まず名前ですが、ただ「本お届けサービス」だと、学校に届けるということがわからないので、最初は「学校・(中黒点)本お届けサービス」や「学校※(米印)本お届けサービス」を仮に使っていたのですが、これではあまり子ども向けではないなということで、間に入れる記号に「★(ほし)」を当てはめて、すると誰かが「学校に★(欲し)いほんが届く」とも読めると言い出して、こうなりました。

あと、少し気にしたのは「星本(☆本)」と呼ばれる特別支援学級で使う教科書があるので、それと混同されないように「☆(白い星)本(漢字)」ではなく「★(黒い星)ほん(平仮名)」と表記しています。

(委 員) 「欲しい本」のダジャレだったんですね。なるほど。ありがとうございました。

(会 長) 他に何か質問はありますか。

(副会長) 「未利用者の多い地区」とありますが、そういうところはたくさんあるのでしょうか。地区によってだいぶ利用は変わりますか？

(事務局) 中央図書館から遠い波崎地区の利用が低い状況です。人口一人当たりの貸出冊点数が、波崎地区は2.9冊点です。市内平均は7.64冊点なので、やはり少し低いかと。中央図書館に近い平泉東地区は12.2冊点の貸出しなので、だいぶ差が出てしまっています。今後「★ほん」をおこなうことにより、子ども達の利用を期待したいです。

(委員) 諮問第1号において「基本方針」「令和3年度の図書館サービス」と大きな項目で説明があったわけですが、まず、基本方針を「何々をおこないます」と6つの柱を立てているのを見受けられるのですが、こういう、運営方針なり事業方針なりの計画については、前段に説明文みたいなものが必要かと私は思います。具体的にどういったものがよいかというと、現在の図書館の状況はこうです、コロナ対策を含めての課題はこうです、対応として図書館では今年度重点的にこういう事業をします、というのを文章書きにして、半ページくらい入れると、より資料がよくなると思います。

もう一点、報告4号について、予算の概要は表になっている方が見やすいのですが、これも同じように前段で、全体で何億何千万円の予算があって、昨年度と比べてこれだけ違ってきますよ、それから、重点的にやる事業についてはこれですよ、という文章を入れる。皆さんがいろんな事業を項目項目で一生懸命細かく予算計上しているのはよくわかるのですが、そうした方が読み手としてはすごくわかりやすいし、より充実した資料になるのではないかと私は思います。

(事務局) 我々の方でご意見を参考にさせていただき、検討して、次回の資料を作成したいと思います。

(会長) その他にご意見はありますか。無いようですので、原案のとおり異議がない旨を答申したいと思います。ご異議ございませんか。

(委員) 異議なし。

(会長) ご異議が無いようですので、原案どおり「諮問第1号「令和3年度神栖市立図書館運営方針（案）について」は異議の無い旨を答申することといたします。

(3) 諮問第2号 令和3年度神栖市立図書館事業計画(案)について

(事務局) (説明)

(会長) 以上、事務局から説明がございましたが、何かご質問がありましたらお願いいたします。

(委員) 委員長、ちょっと提案いたします。図書館協議会については、法律で定められた諮問機関でありますので、非常に重要なものです。事務局としても、教育委員会会議とか議会の説明とかで、この会議ではどういう意見交換がなされているかということをお問われることもあるでしょう。その際、この図書館協議会でこういう意見があったというのは非常に重視されるかと思いません。ですから、なるべく皆さんの意見を出していただいた方がいいのではないのでしょうか。第1回目の会議はなかったのですが、アンケート結果を拝見すると、色々な良い意見がたくさん出ていると思います。会議の中で自分から手を挙げて発言するのがちょっと、と思う方もいるかもしれませんが、学校長をはじめ、色々な専門分野の方が委員になっていらっしゃるし、会長の方から指名してそれぞれの意見をうかがったらいいのではないのでしょうか。事務局としても、皆さんがどう思っているのかを聞きたいのだと思いませんし、なければならぬと思えます。

(会長) おっしゃったことはその通りで、当然のことだと思います。ただ、急に何か言ってくださいと言われても、皆さんにとっては突然ですよ。次回から心して来ていただくということで、どうでしょうか。ざっくりばらんに、堅苦しいことは無しにして、お話ししていただければと思います。

(委員) 児童サービスですが、子どもまつりやたなばたまつり、ふゆまつり、図書館クイズや本のお楽しみ袋など色々やっていますが、どのくらいの予算がかかっているのかを知りたいのと、今年度の予算の概要に、それはどのような形で載っているのでしょうか。

(事務局) 児童サービスでの催しものですが、子どもまつり・ふゆまつりでは、参加者への記念品を、ひとり200円以内で消耗品費から出しています。参加者をそれぞれ30人として、それぞれ6千円ほどです。記念品にはペンや自由帳、おりがみなどがあります。

(委員) 会費制にして、そこから出しているのでしょうか。

(事務局) 参加費はとっていません。

(委員) そうなのですね。

(事務局) 記念品以外のちょっとしたおまけや飾りつけなども、職員や会計年度任用職員の手作りなので、かかっているのは紙代やマーカー代くらいで、これも消耗品費です。

また、今年初めておこなった「本のお楽しみ袋」は、10月から11月初めの秋の読書週間に合わせたものですが、児童向けの図書を中身がわからないようにして貸出しました。年齢やテーマ別に分け、1袋3冊入りで、テーマの例としては「絵本」や「物語」「いきもの」「乗り物」「ちょっとこわい」などで、貸出数は257セット(770冊)ありました。これも、市販の紙袋に入れて、どんなテーマかがわかるように袋に貼るシールも手作りだったので、紙袋代くらいしか費用はかかっていません。

その他、たなばたまつりに使う笹も、市民の方から無償で提供していただいたものを職員が取りに行き、飾りなども手作りしています。

(委員) 七夕の飾りつけ、すごいですよね。とてもきれいで、子ども達が喜ぶような飾りつけですし、大人が見ても明るい気持ちになると思います。

(事務局) ありがとうございます。

(委員) 神栖市としてこれだけの大きな予算を組んで、文化振興に力を入れているということを委員になって初めて知り、神栖市の取り組みに感服しました。その中でも、学校との連携、学校図書館支援など、児童生徒向けの普及活動に十分力を入れていただいているということに、学校関係者としてありがたいなと思っています。学校図書館支援センターについても、今後、発展していく分野だと思いますので、ぜひとも、学校や教育委員会との連携をさらに図っていただければと思います。

質問といたしましては、予算書の中にもありましたが、書籍消毒器の設置というのが新型コロナウイルス対策として活用されるということですが、台数を入れて、それが貸出数などにどのような効果があるのかをお聞きしたいなと思います。

学校では貸出しができない状況であるので、そういった取り組みでの効果などがわかれば、参考にできるのではないかと思ったものですから。

(事務局) 今回の書籍消毒器は、新型コロナウイルス対策として設置したものではありません。コロナの騒ぎが始まる前に予算として計上していたものです。書

籍消毒器は、今、全国の図書館にかなりの台数が配置されています。しかし、メーカーが作ったのはコロナの前ですから、ウイルスにとか、除菌とか書かれています。コロナに対しては有効であるとも無効であるともありません。

中央図書館には今月入ったばかりです。大きさは家庭用電子レンジの2、3倍くらいで、本をセットしてボタンを押すと、風でほこりや髪の毛が落ちて、滅菌器のように紫外線を当てるといふものです。需要はすごくあるものですが、値段が高価です。カウンター前にあるので、実際にご覧になって、使ってみてください。新年度はリースで検討し、予算に計上して、秋以降、学習センターや矢田部、若松、うずもへの設置を予定しています。

そもそも事の発端は、赤ちゃんや小さいお子さんがいる方、妊婦さんなど、衛生関係やアレルギーなどに気を付けている方の、図書館の本を使いたいけど怖いという不安を取り除くためのひとつだと考えております。コロナに対する有効性はまだ検証された結果がないということです。

(委 員) 確かに、紫外線でのコロナの消毒はまだ検証されていない状況ですよね。私は医療関係なのですが、図書館が今やっているアルコールや次亜塩素酸のコロナ対策は効果があるようです。資料でいただいたような抗菌・抗ウイルスシートをドアノブとか本の表面とか、皆が触るところに貼っているのも、コロナ対策になっているのかなと思います。

(事 務 局) 抗菌・抗ウイルスシートのお話が出ましたので、申し上げます。図書館の本に貼っているコーティングフィルムをブックコートというのですが、こちらにつきましては抗菌仕様というものですので、菌が減るといふのはメーカーも言っているのですが、コロナにはどうなのかという問い合わせを何回かしましたが、回答は返ってこない状況です。ドアノブなどに貼っている抗菌・抗ウイルスシートの方は、ウイルスにもちゃんと効果があるということなので、最近貼りました。そういうわけで、本のブックコートにつきましては、書籍消毒器と同じように、まだ未実証というところです。

(会 長) 他に質問がある方はいらっしゃいますか。無いようですので、原案のとおり異議がない旨、答申したいと思いますが、ご異議ございませんか。

(委員一同) 異議なし。

(会 長) ご異議が無いようですので、諮問第2号「令和3年度神栖市立図書館事業計画(案)について」は原案のとおり異議の無い旨、答申することといたします。

4 その他

(1) 学校★ (ほし) ほんお届けサービスについて

(事務局) (説明)

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う対応報告 2

(事務局) (説明)

(会長) その他として、事務局から2点ご説明いただきました。何かご質問がある方がいらっしゃいましたら、お願いいたします。

(委員) (「★ほん」を) ここまでデータを取るのは大変だったと思います。ご苦労様でした。2, 3年生の貸出しがちょっと寂しい感じですね。ただ、息栖小さんはマンモス校ですし、開始から確実に貸出しが伸びていて、良いことだと思います。受付件数に対して利用者の合計数に差があるのは、同じ人が借りているからですね。これからは、他の子達にどうアピールをしていくかだと思うのですが、どのようなアピールをされていますか。

(事務局) 来年度、市内全22校についてを一斉に始めるのはちょっと難しいため、中央図書館から遠い波崎地区から希望を取り、手を挙げた学校から始めることを考えています。その際、こちらとしては、学校に出向いて、少しの時間でいいのでPRさせていただけたらと思っています。波崎地区の児童生徒は利用カードを持っていない子もいると思うので、今年度試行中の息栖小と同じように、学校に利用カードの申込用紙を配布し、「★ほん」の貸出しボックスを通して利用登録ができて、カードのお渡しもできるようにします。まずは利用カードを作ってもらふことと、市立図書館にはたくさんの本があるんだよということをおアピールしたいと思います。

また、今年、息栖小の6年生のキャリア教育の一環で、講師に招かれ、図書館の本は無料で借りられること、生涯学習に図書館がいかに関わっているのかということなどを説明したことがあります。そこまで詳細でなくても、図書館利用について各学校の児童生徒にアピールにできたらと思っています。

(委員) 波崎地区は子ども会の参加率も少なく、興味が無い、面倒くさい、という理由で脱退したいと言われることもあります。アピールというのは非常に重要だと思うので、引き続き頑張っていたいただきたいと思います。

(事務局) 「学校★ほんお届けサービス」について補足をさせていただきます。学校に、学校図書館を担当する学校図書館指導員が入ったのは8年前なのですが、これは教育指導課が配置をしました。それがあったから、中央図書館でも学校図書館支援センターを作りました。中央図書館開館以来、学校図書館支援事業というのはあり、模索をしていたのですが、現場に受けとってくれる人がいないと機能しない。我々も学校に対し、色々支援や事業をやってきたのですが、学校にどうアプローチし、どう言えば学校が受け取って一緒にやってくれるかというのがわかりませんでした。今年度、昨年3月まで先生だった人を学校図書館アドバイザーとして採用しました。そのため、学校現場とよりスムーズな連携が取れるようになりました。

「★ほん」は、類似事業をおこなっている取手市では、上の教育委員会が市内全校を一斉にやりますよということで始まりましたが、うちは、現場に受け入れてくれる先生などの担当者がいて、協力してくれるならやりましようというものです。学校の現場があつてのサービスとなります。

(事務局) 取手市のしくみを簡単に真似ができないところは、新規導入費用がかかっているということです。各学校と図書館をオンラインで結んでいます。

今回の神栖市では、GIGAスクール構想で7千7百人の児童生徒にひとり1台、タブレットが整備されます。タブレットが行き渡ったことにより、取手のように学校図書館に行かないと予約ができないというわけではなく、教室にしながら図書館のHPにアクセスできる。先生方にも使っていただいて、協力を得られればと思っています。また、社会科見学で小学2年生は必ず市の施設の見学に行きます。中央図書館にも、うずも図書館、中央公民館、学習センター、矢田部、若松の全部に来ます。そういうところでも、タブレットで予約ができることを説明したいと思います。

タブレットの整備を学務課がおこなうことにより、図書館は、人手部分の予算は必要ですが、追加のコンピュータシステム費は必要なく進められます。GIGAスクール構想とうまく組み合わせて「★ほん」を進め、2、3年後にはいい形で軌道に乗せていきたいです。トップダウン方式でなく学校とお互いに協力し合ってやっていこうと思います。

(会長) では、他にご質問もないようですね。たくさんのご意見や質問をありがとうございました。

以上，報告や諮問等，全ての審議は皆さまのご協力をもちまして滞りなく
終了いたしました。本日はありがとうございました。

(一 同) ありがとうございました。

以上